

MTT034-P04

会場:コンベンションホール

時間:5月24日 14:00-16:30

地球惑星科学の社会への普及に対するツイッターの貢献事例 Contribution of Twitter to social propagation of earth and planetary sciences: a case related to marine transgression

小口 高^{1*}, 近藤 康久¹, 早川 裕弐¹
Takashi Oguchi^{1*}, Yasuhisa Kondo¹, Yuichi S. Hayakawa¹

¹ 東京大学・空間情報科学研究センター

¹ CSIS, Univ. Tokyo

地球惑星科学の研究者は、レベルの高い研究を進めるとともに、研究の成果や学術的な知識を社会に広く伝えていくべきである。大衆の多くは地球惑星科学の専門家ではないため、学術的な内容をいかにわかりやすく伝達するかが重要である。

一方、地球惑星科学の専門家ではないが、興味を持っている人が、書籍やテレビなどを通じて地球惑星科学に関連した内容を広めることがある。これは、地球惑星科学の普及という点では歓迎すべきことである。しかし、科学的な理解が不十分なために、誤った知識が語られて広まるリスクも高い。とりわけ、伝達者が著名人であると、誤った内容であっても大衆が信じてしまう可能性がある。このような問題には、地球惑星科学の専門家が目を光らせているべきである。しかし実際には、専門家は学術雑誌や学会の動向を注視する一方で、大衆が触れるマスコミやメディアで何が起きているかを知らない場合が多い。

ツイッターなどのソーシャルメディアに地球惑星科学の研究者が参加すると、研究機関や学会と比べて、多様な人と知り合うことができる。その結果、一般的なメディアやマスコミで、地球惑星科学の話題がどのように取り上げられているかを知る機会が増える。その過程で、地球惑星科学の内容が不適切な形で紹介されていることがわかれば、ソーシャルメディアを通じて正しい内容を発信することにより、地球惑星科学の適切な普及に貢献できる。

本発表では、上記のようなソーシャルメディアの活用事例を紹介する。具体的には、ある宗教学者が著し、ベストセラーとなった書籍の中で、過大な規模の縄文海進が示されている問題について、ツイッターで行われた情報交換と議論の経緯を述べる。議論には地球科学者、考古学者、景観生態学や地図の関係者、一般の市民などが参加し、地球科学者が縄文海進について行ってきた研究も紹介された。議論の経緯はウェブページにまとめられ、縄文海進に関するオンライン情報として頻繁に参照されている。

キーワード: 地球惑星科学, 社会, ツイッター, 縄文海進

Keywords: Earth and Planetary Science, society, Twitter, mid-Holocene marine transgression